

## 平成 26 年度牧之原市民意識調査結果（一部抜粋）について

### 1 調査の概要

- ・目的 市の様々な取り組みに対する市民の意識を把握し、事業の達成度を確  
認するとともに、今後の市政へ反映させる。
- ・調査期間 平成 26 年 7 月 18 日～ 8 月 1 日
- ・対象 16 歳以上の市民 1,400 人を無作為抽出
- ・実施方法 郵送による調査票配布及び回収（回答は無記名）
- ・発送数 1,394 通（転居等により 6 通未達）
- ・有効回収数 787 件
- ・有効回収率 56.5%（H25:61.6%、H24:40.9%）
- ・経過 平成 19 年度から実施し、今回調査で 7 回目

### 2 調査結果（一部抜粋）

#### （1）今お住まいの場所に今後とも住みたいと思いますか？（報告書 P 8）

「住みたい」は 57.4%となり、昨年度より 2.5%低下した一方、「市外へ移りたい」は 19.8%となり、昨年度より 1.4%上昇した。  
市外・市内の他の場所へ移りたい理由は、「地震や津波などの被災のおそれがあるから」が 60.5%と最も高かった。  
「住みたい」は 10～40 歳代では 5 割を下回った。  
30 歳代女性の「住みたい」が 30.8%と他の年代と比べ低かった。

#### （2）今現在、幸せだと思いますか？（報告書 P 12）

「幸せと思う」（「大いに思う」＋「ある程度思う」）は 69.4%となり、昨年度より 2.8%上昇し、全体の約 7 割を占めた。一方で、「幸せと思わない」（「あまり思わない」＋「まったく思わない」）は 8.0%となり、昨年度より 3.6%低下した。  
幸せだと思う理由は、10～20 歳代では、「家族や友人との関係が良好だから」、40 歳以上では、「健康であるから」がそれぞれもっとも高かった。30 歳代では、「家族や友人との関係が良好だから」と「健康であるから」が同率でもっとも高かった。

(3) 市は子どもを産み育てやすい環境だと思いますか？子どもを産み育てやすい環境にするために市が取り組むべきことは何ですか？（報告書 P18）

産み育てやすい環境か

ア 「子どもを産み育てやすい環境だと思う」（「大いに思う（3.3%）」+「ある程度思う（30.2%）」）は 33.5%と3割を占め、昨年度より3.6%上昇した一方で、「子どもを産み育てやすい環境だと思わない」（「あまり思わない（19.3%）」+「まったく思わない（6.1%）」）は 25.4%と昨年度より2.9%低下した。

イ 「産み育てやすい環境だと思わない」がもっとも高かったのは、30歳代（38.7%）で、「子どもを産み育てやすい環境だと思う」（25.8%）を10%以上上回った。

市が取り組むべきこと

ア 「小児科や産婦人科などの医療機関の充実」が66.7%ともっとも高く、次いで「医療費の無料化」（42.3%）、「地震・津波など災害対策」（30.2%）となった。

イ 10～30歳代では、「小児科や産婦人科などの医療機関の充実」、「医療費の無料化」に次いで、「親子で遊べる施設や公園の整備」となった。

(4) 公共施設の更新問題（老朽化問題）を知っていましたか？更新問題に対する市の取り組みを知っていましたか？（報告書 P21）

公共施設の更新問題を知っていたか

ア 「更新問題の認知度」（「知っている」）は31.6%と約3割、「聞いたことがある」は37.1%となった。

イ 「更新問題の認知度」がもっとも高かったのは、60歳代（47.1%）であった一方で、年齢が下がるにつれて低下傾向で、10～20歳代では12.5%となった。

更新問題に対する市の取り組みを知っていたか

ア 「市の取り組みの認知度」（「知っている」）は8.1%と1割未満、「聞いたことがある」は21.0%となった。

イ 「市の取り組みの認知度」がもっとも高かったのは、70歳代（15.7%）となった一方で、年齢が下がるにつれて低下傾向で、10～20歳代では0%となった。

ウ 市の取り組みの情報入手経路については、「広報まきのほら」が65.9%ともっとも高く、次いで「家族や知人から」（32.8%）、「議員の話」（14.4%）となった。

(5) 公共施設更新問題の対応を進めることで起こる諸問題についてどう思いますか？（報告書 P25）

「対応を進めることで起こる諸問題への容認度」（「容認できる（12.6%）」+「ある程度までは容認できる（70.4%）」）は83.0%と8割を占めた。

「容認度」がもっとも高かったのは、60歳代（88.2%（「容認できる（15.5%）」+「ある程度までは容認できる（72.7%）」）となった。

(6)市の産業は活力があると思いますか？市の産業が活力を持つために市が力を入れるべき取り組みは何ですか？（報告書P26、28）

市の産業は活力があるか

ア 「活力があると思う」（「大いに思う（0.3%）」+「ある程度思う（5.5%）」）は5.8%となった一方で、「活力があると思わない」（「あまり思わない（46.4%）」+「まったく思わない（16.4%）」）は62.8%となった。

イ 活力がある産業としては、農業が55.6%と最も高く、次いで「工業」（31.1%）「水産業」（22.2%）となった。

市の産業が活力を持つために力を入れるべき取り組みは何か

ア 「企業誘致の促進」が47.8%と最も高く、次いで「後継者育成への支援」（40.8%）「特産品・製品の市外へのPR」（32.3%）となった。

イ 10歳代では、「後継者育成への支援」（33.3%）20歳代では、「特産品・製品の市外へのPR」（45.3%）とそれぞれ最も高かった。

(7)週に何日くらい外出しますか？現在参加している地域活動は何ですか？地域活動の活発・活性化に必要と思うことは何ですか？（報告書P30、33、35）

週に何日くらい外出するか

ア 「毎日外出する」は、48.8%と全体の約5割を占めた。

イ 毎日外出する割合は、年齢が上がるにつれ低下傾向で、60歳代では43.9%、70歳代では21.5%、80歳以上では17.5%となった。

ウ 外出目的は、「買い物」が83.7%と最も多く、次いで、「仕事」（63.9%）「趣味や娯楽」（37.5%）となった。60歳以上では「医療機関への通院」が4割～5割と他の年代と比べ高くなった。

現在参加している地域活動は何か

ア 「自治会の行事」が36.2%と最も高く、次いで、「防犯・防災活動」（21.7%）「文化・芸術活動」（15.5%）となった一方で、「参加していない」も29.0%と高かった。

イ 子育て支援が1.4%と最も低かった。

ウ 「地域活動へ参加していない」割合は、20歳代で65.6%と最も高く、次いで、10歳代（37.5%）30歳代（33.7%）となった。

地域活動の活発・活性化に必要なものは何か

ア 「住民の自治意識の向上」が51.2%と最も高く、次いで、「行政と住民との地域情報の共有」（37.9%）「行政からの財政支援」（28.2%）となった。

イ 30歳代では「行政からの財政支援」が36.6%と他の年代と比べ高かった。

- ( 8 )市からの情報の中でどんな情報を得たいと思いますか？市からの情報を何によって知ることが多いですか？広報まきのはらのどこを読みますか？  
( 報告書 P 36、 39、 42 )

市からの情報の中でどんな情報を得たいか

ア 「健康・医療・福祉」が 65.1%ともっとも高く、次いで「防災・防犯」が 50.6%となった。

イ 10 歳代では、「防災・防犯」が 50.0%ともっとも高く、30 歳代では、「子育て」が 46.5%と他の年代と比べ高くなった。

市からの情報を何によって知ることが多いか

ア 「広報まきのはら」が 81.1%と圧倒的に高かった。

イ 昨年度から開設した市のフェイスブックにより情報を得ている年代は、30 歳代が 12.9%ともっとも高かった。

広報まきのはらのどこを読むか

ア 「全て」が 56.9%ともっとも高く、次いで、「特集・お知らせ」( 28.5% )、「まちのわだい」( 17.6% ) などとなった。

イ 10 歳代では、「輝け未来」が 25.0%、20 歳代では、「集まれまきのはら KIDS」が 31.0%と他の年代と比べそれぞれ高かった。

( 9 ) 浜岡原子力発電所の今後についてどう思いますか？ ( 報告書 P 16 )

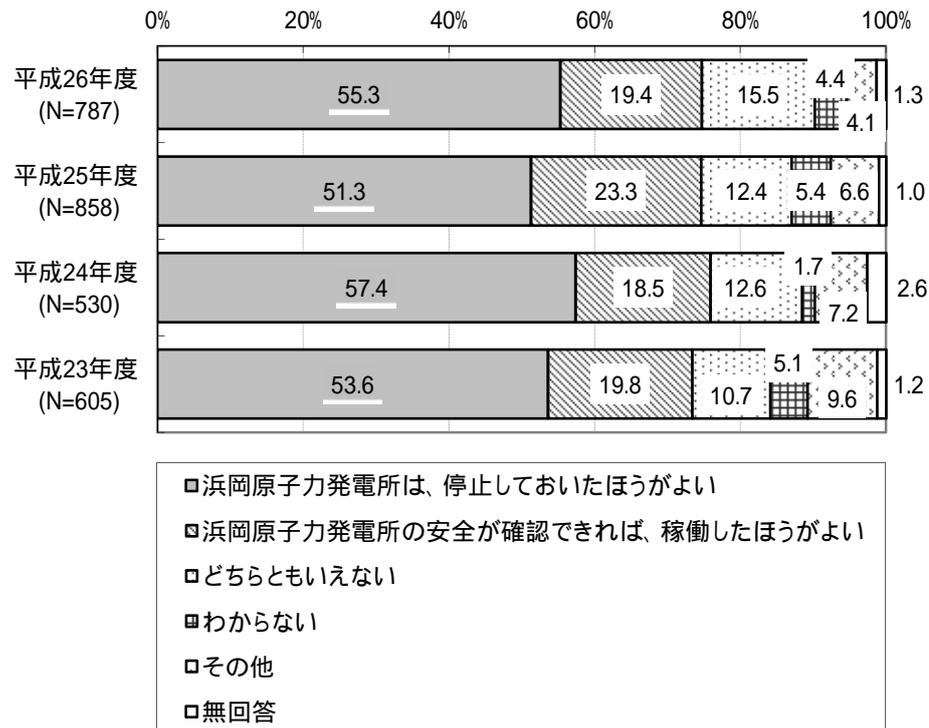
全体

ア 「停止しておいたほうがよい」は 55.3% となり過半数を占め、前回結果の 51.3% より 4.0% 上昇した。

イ 「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」は、前回結果の 23.3% から 3.9% 低下し 19.4% となった。

ウ 「その他」の 4.1% には廃炉等の意見 2.0% が含まれている。

( 廃炉等の意見 : H25 は 3.5%、H24 は 4.0%、H23 は 6.3% )



男女別

ア 「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」は、男性が 24.3% となり、女性の 15.5% を上回った。( 昨年度 : 男性 32.2%、女性 16.4% )

イ 「停止しておいたほうがよい」は、女性が 57.8% と男性の 51.7% を上回った。( 昨年度 : 男性 48.8%、女性 53.8% )

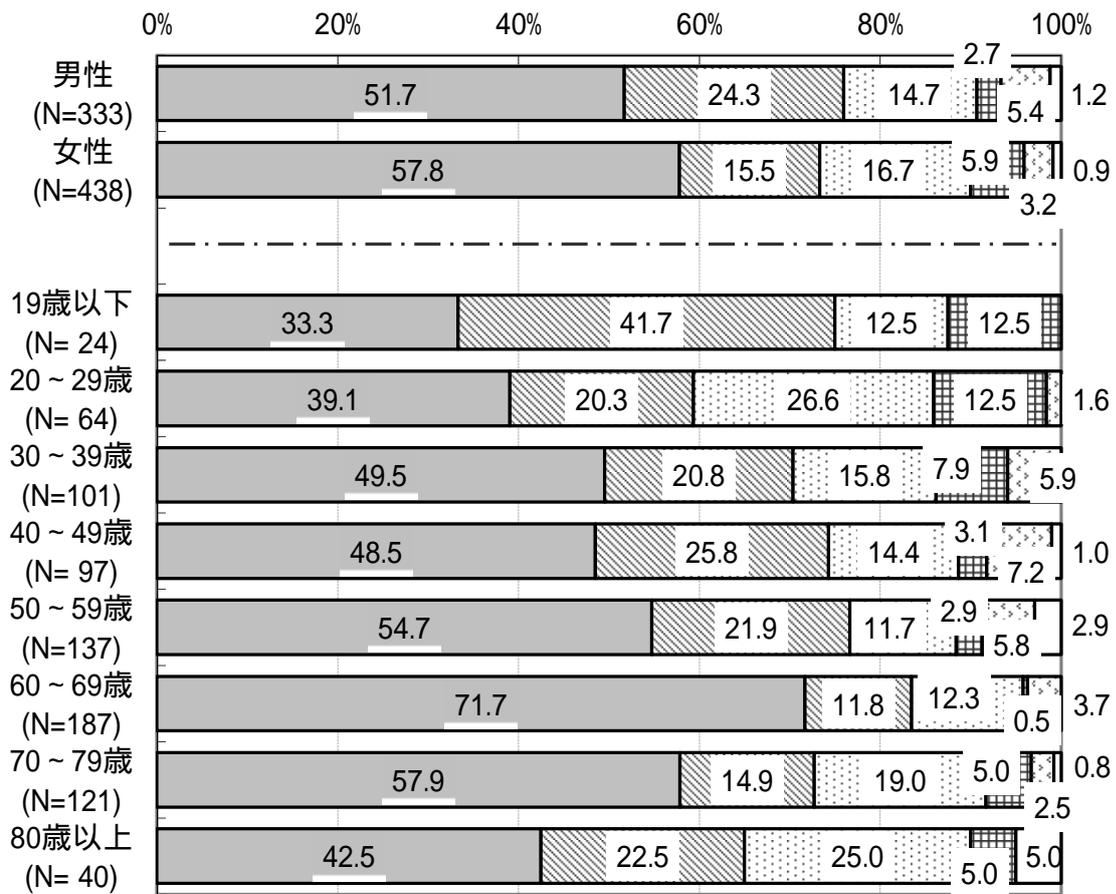
ウ 「どちらともいえない」は、女性が 16.7% と H23 から増加傾向にある。

年齢別

ア 10 歳代では、「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」が 41.7% と他の年代と比べもっとも高く、「停止しておいたほうがよい」が 33.3% ともっとも低かった。

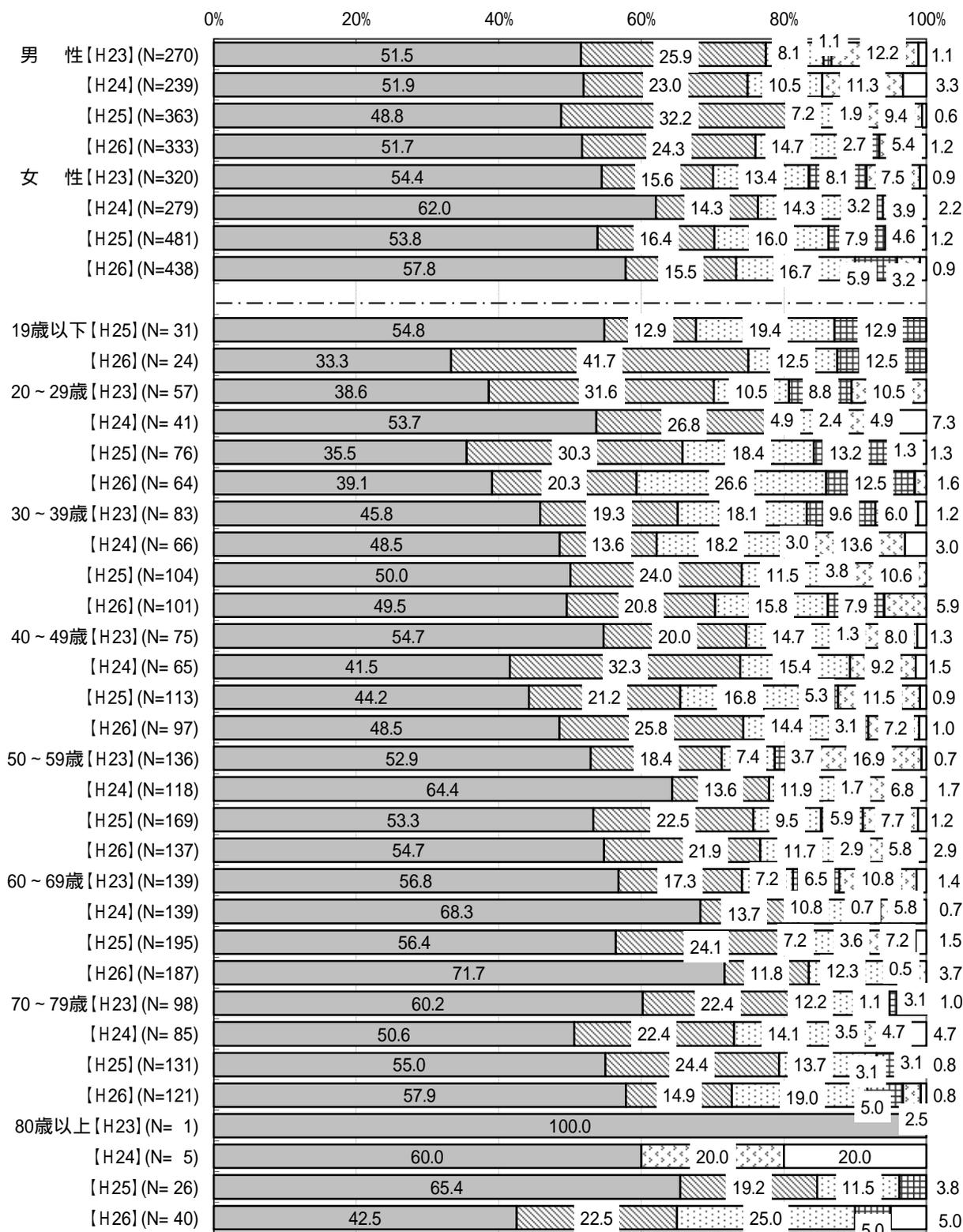
イ 60 歳代では、「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」が 11.8% と他の年代と比べもっとも低く、「停止しておいたほうがよい」が 71.7% ともっとも高かった。

【浜岡原発：性別・年齢別クロス】



- 浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい
- 浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい
- どちらともいえない
- わからない
- その他
- 無回答

【浜岡原発：性別・年齢別クロス / 平成23年度以降 経年比較】



浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい  
 浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい  
 どちらともいえない  
 わからない  
 その他  
 無回答